

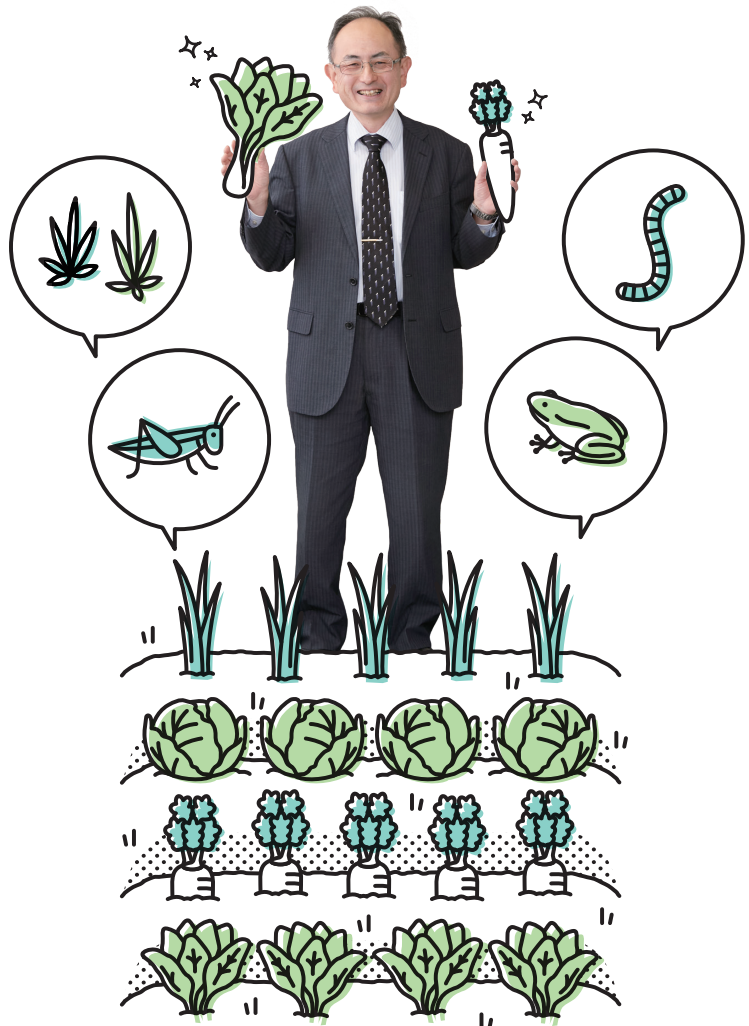
Q 未来の農業は  
どうなっていくの？



**農薬も化学肥料も一切使わない、  
エコな農業の確立をめざしています。**

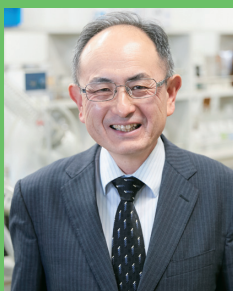
自然の力を最大限利用する  
自然栽培という農業。

一般的に農業では、化学肥料を用いて作物の成長を促したり、農薬を使用することで病気や虫食いを抑制するなどして、野菜や果物の栽培を行います。これに対して、化学肥料を一切使わずに微生物などの力を借り、植物や土壌が本来持っている力を引き出すことで栽培を行う自然栽培というものがあります。従来、肥料などを与えないと作物はあまり育たないと考えられており、自然栽培は難しいものとされてきました。しかし、数十年にわたり自然栽培を成功させている生産者も存在しています。ただし、継続的に自然栽培が成功できている理由はわかっていません。そこで私は、この謎を解き明かすための研究を行っています。



従来の農業は、  
環境を破壊している？

作物の栽培に有効な化学肥料ですが、環境に負荷をかけるという側面があります。たとえば、与えられた化学肥料のうち、作物が吸収するのは一般的にその半分以下。残った化学肥料は、地球温暖化やオゾン層破壊の原因の1つである亜酸化窒素という物質になって放出されたりします。また、化学肥料の生産にも大量のエネルギーが使われているなど、環境問題の一因に。このような背景から、近年自然環境と調和した自然栽培のような農業が求められるようになってきています。今後も研究を続けることで、自然栽培についての理論的根拠を明らかにし、それにもとづいた栽培の指針を提示したいと考えています。



磯井 俊行 先生

Isoi Toshiyuki

食糧問題に貢献したいという思いがあり、農学を学びはじめました。大学3年生のときに「アフリカで大豆栽培を行うプロジェクトがある」という内容の講義を受け、興味を持ったことがきっかけで研究の道に。生産者の方と対話することを大切にしています。

私の気分転換



思い出の品で、  
モチベーションも回復。

研究で疲れたときに、色紙代わりに卒業生が贈ってくれたクマのぬいぐるみなど、卒業生との思い出の品を見ると、学生のみなさんと過ごした記憶が蘇り、気分転換に。研究のモチベーションも回復しますよ。